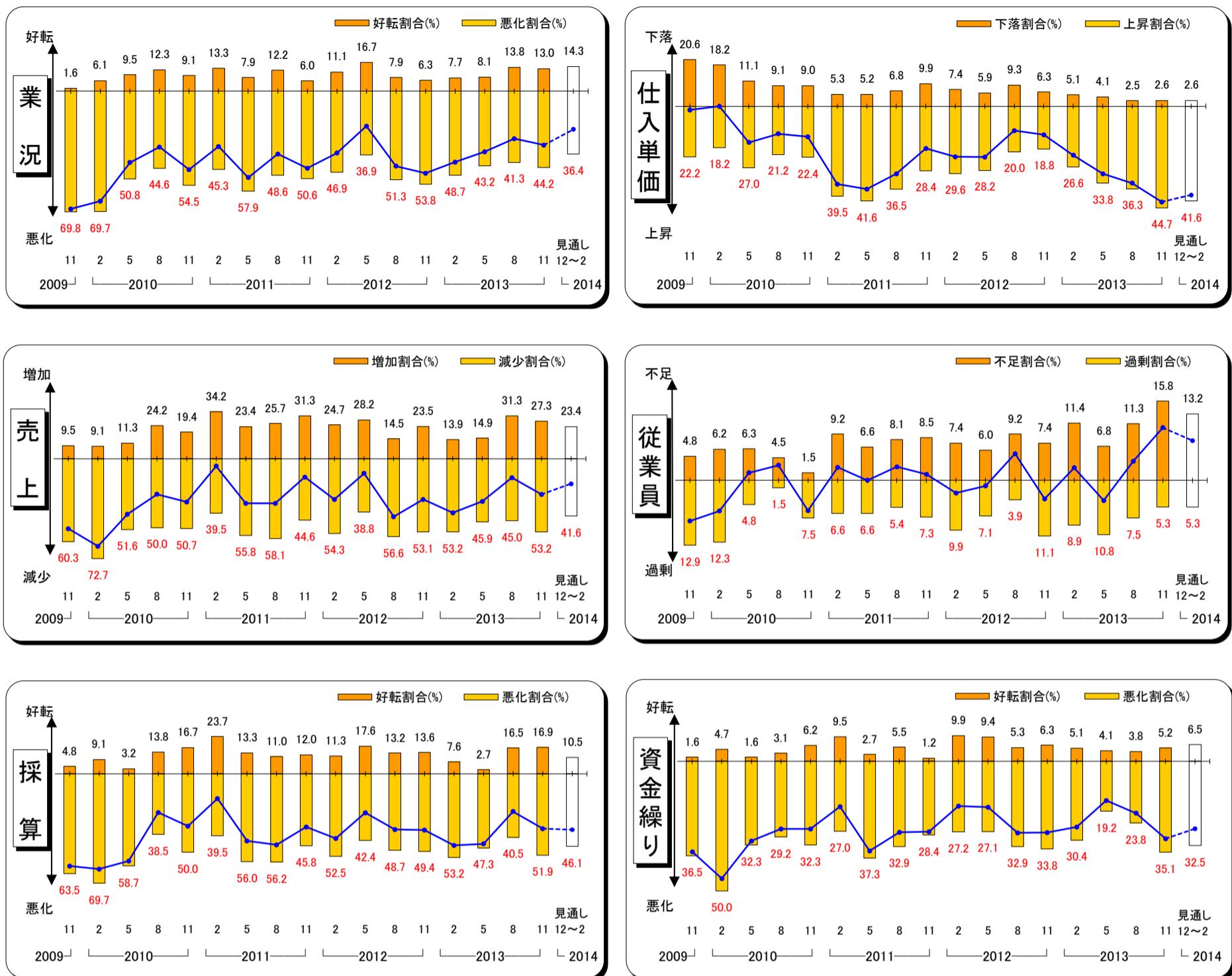


# 【小売業】①



## 【小売業】②

### 企業の声（順不同）

呉服・服地小売業	鳥インフルエンザの余波で羽毛価格が上昇しているが、年明けには落ち着く見通し。綿製品の仕入価格も若干上昇。全体としては業況に変化なし。
男子服小売業	秋冬物から一部商品の仕入単価が上昇しており、今後消費税の増税分とともに販売価格に上乗せした場合の影響が心配です。
靴小売業	消費税率引き上げに伴う経過措置で、外税での価格表示については安堵しています。
靴小売業	靴の選び方で元気度に大きな違いがあります。良い靴を選べば、歩くだけで姿勢が整いバランス良く筋肉を使うため、身体が整いホメオスタシス（恒常性）の向上が考えられます。
食肉小売業	為替の影響で仕入価格及び包装材価格が高騰し、上昇分を小売価格に転嫁できない為に半期で今までにない赤字を記録した。その上、消費税率の引き上げ分を転嫁できない事態となると非常に厳しい。
米穀類小売業	今年の新米が出揃いました。お客様にピカピカのごはんを、どうか御家族お揃いで御賞味願いたいのですが、現代はご家族団欒の姿が見えません。当店が嫌われたかと心配な程です。
自動車部分品・附属品小売業	カー用品店においては冬商材の販売増加により若干売上高の伸びが期待出来る。例としては、スタッドレススタイヤ、タイヤチェーン等々で、来年2月頃まで需要が増すと思われる。
二輪自動車小売業	当業界のトピックとしては、恒常的な二輪車駐輪場不足で販売数、保有台数とも減少している。また、平成18年6月に警察庁が二輪車の駐車禁止取締の強化をさせて以来、平成24年12月末までの6年7ヶ月間で東京都の駐車禁止の反則切符が切られた案件は78万件、総罰金額も70億円に達し、平成25年1月から6月までの同案件も3万件で、全国の24.5%を占めている。一方、横須賀二輪車安全普及協会が横須賀市と災害時における協定に調印し、バイクによる情報伝達物資の運搬、被災現場の確認等の活動が認められ、さらに一般社団法人日本二輪車普及安全協会が平成25年10月1日に認可発足した。
電気機械器具小売業	粗利の確保が厳しい。キャッシュフローに余裕がない。消費税率アップ前の駆け込み需要が多少あるにせよ、反動の方が大きいと思われる。そこをどのように乗り切るかを問題としている。
電気機械器具小売業	受注単価の下落、同業他社との競合、個人消費の停滞（特に高齢者の動向が気になる）、等の諸問題から、売上高が上がらず採算が悪化している。人材の育成に力を入れ対策を検討しているが、すぐに効果が出ず、苦しい状態が続くと思われる。
医薬品小売業	非常にネガティブな見通しですが、インターネット販売規制緩和により一般OTC（オーバー・ザ・カウンター＝薬局等販売）による医薬品売上は下向き不可避、加えて国家予算の医療費削減により、どう考えても将来は明るくないです。
調剤薬局	インターネット販売規制緩和の影響等あり。一般薬の小売はこれからますます厳しくなる。
燃料小売業	昨年末からの円安による仕入単価の上昇を未だに末端価格に転嫁できない。緩やかながら人手不足気味で先行きは悲観的。大型投資により手元資金は減少。
紙・文房具小売業	消費税引き上げによる環境変化にどう対応するかが課題ですね。
紙・文房具小売業	従来、販売価格は消費税を含んだ全額で表示ということでやって来ましたが、本体金額の表示の場合はソフト面で5%から8%へ変更すれば良いのに、総額表示の場合は全部値札を貼り替えなければならず、大変な作業になります。これがまた10%の時にも同じ作業をしなければならないと思うと気が重くなります。
スポーツ用品小売業	同業大手も厳しいようで、先の見えない消耗戦が続いている。当社もギリギリの経営で、これ以上消費が落ち込むと持ちこたえられなくなります。来春の消費税率引き上げで更に悪化しないよう、政府にはしっかりと対応をしていただきたい。
時計・眼鏡・光学機械小売業	来年は消費税の増税、景気回復による企業の税金で大幅に税収が増えるそうだ。それはそうであろう。景気回復とは無縁の我が社もさえも幾ばくかの税金を納めているのだから。医療費を抑制し、赤字国債を減少させ、後に続く若い世代の負担を少しでも減らしていただきたい。
ホームセンター	消費税率引き上げによる消費の低迷が懸念される。但し、駆け込み需要には期待している。円安により仕入単価が増額しているが、今後は減額に向かうよう期待している。
工業薬品・理化学機器等小売業	アベノミクス効果で少しは景気が上向いてきたところに、消費税率の8%引き上げを決定したことはやや判断が早いと思う。もう1年待って引き上げをして欲しかった。いずれにしても引き上げ後は、景気は多かれ少なかれ落ちると思う。